

1 組織

- (1) 東京都立三田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（庶務担当）＝事務局長、副校長、非常勤教員 計3名
- (3) 内部委員の構成
 - 校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭4名（教務担当、生活指導担当、進路指導担当、1学年担当）、主任教諭2名（国際教育部主任、庶務部主任） 計9名
 - ・評価委員の構成
 - 副校長、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（庶務担当） 計3名
- (4) 協議委員の構成
 - 有識者3名（大学名誉教授、大学客員教授、進路指導研究会）、PTA会長、同窓会会長、同窓会役員、地域住民代表、近隣中学校長、近隣小学校長、消防署出張所長、区防災担当者、スクールサポーター 計12名
 - ・評価委員の構成
 - 有識者2名（大学名誉教授、大学客員教授）、PTA会長、同窓会会長 計4名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和2年7月 書面開催（資料を送付し、メール等による意見交換）
 - 学校経営計画・現状と課題・各分掌等の取組計画説明、三田高校が期待する生徒像、教員の指導力の向上、生徒一人PC1台を活用した取組、新型コロナウイルス対応策の今後の活用
 - 第2回 令和3年11月4日（木）15時30分～17時 内部委員10名、協議委員10名
 - 学校経営計画の進捗状況、令和4年度学校経営計画の骨子、分掌等業務取組の中間報告、新型コロナウイルス対応（オンライン授業、学校行事、授業時間、保健委員による黙食啓発等）、探究学習の取組、進学指導・合格実績・志望状況の傾向、中学生の本校志望状況の分析、老朽化した施設の対応、意見交換
 - 第3回 令和3年3月 書面開催（資料を送付し、メール等による意見交換）
 - 学校経営のポイントと令和4年度学校経営計画（案）、分掌等の年度末報告、コロナ禍における生徒の基本的な生活習慣・メンタルヘルス、学校行事の指導の継承、チーム三田の進路指導の方針、教員のライフ・ワーク・バランス
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和2年7月 書面開催（資料を送付し、メール等による意見交換）
 - 令和2年度学校評価結果を踏まえた課題の確認、令和3年度学校評価の基本方針の確認、新型コロナウイルスの影響を考慮した生徒・保護者への質問内容の検討
 - 第2回 令和3年11月4日（木） 内部委員3名、協議委員3名
 - 学校評価アンケート項目・質問内容の検討
 - 第3回 令和3年3月 書面開催（資料を送付し、メール等による意見交換）
 - 令和3年度学校評価実施状況・回収状況・集計結果報告、アンケート結果の分析・考察、自由意見への着目と改善、評価結果のフィードバック

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価アンケート報告）

- (1) 学校評価の観点
 - 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：834人	回収：724人	回収率：86.8%
・12月	保護者全員	対象：834人	回収：550人	回収率：65.9%
・12月	教職員	対象：47人	回収：47人	回収率：100%

(3) 主な評価項目

- ・学校満足度、教育方針の理解、学習指導、施設・設備、進路指導、国際理解教育、生活指導、特別活動・部活動、安心安全な学校生活、防災教育、相談体制、地域連携、東京都教育委員会指定事業、ライフ・ワーク・バランスの推進（働き方改革）

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・「入学満足度」については、生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が多い。
- ・「本校も期待する生徒の姿」の前文に示されている「スローガン」の認知度は、1年生で最も高い。
- ・「授業への取組」については、生徒・保護者ともに肯定的回答が連続して増加し、90%になった。三者ともに、生徒は真面目に授業に取り組んでいると評価している。
- ・「自宅学習への取組」については、教員では肯定的回答が94%あるが、保護者70%、生徒64%とともに少ない。学年別に見ると、受験を控えている3年生では肯定的回答が84%あるが、1・2年では55・56%と低く、教員の評価と乖離している。
- ・「教員の教材・教え方への工夫」、「教員の質問への対応」については、教員では昨年度から教員自身について尋ねる形式に変更したが、昨年度と同様大きな変化は見られなかった。教員では質問への対応より教え方の工夫の方が自己評価が高いのに対して。生徒・保護者では逆に質問への対応に対する評価の方が高い。ただし、保護者の回答では、「わからない」が30%前後あるため、肯定的回答は60%台にとどまっており、生徒と比べて肯定的回答が25%以上少ない。
- ・「施設・設備」については、三者ともに例年通り否定的回答が肯定的回答よりも多く、肯定的回答が全項目中、生徒では2番目に少なく、教員・保護者では最も少なく、否定的回答が際立って多い。
- ・「校内美化」については、教員では肯定的回答が約2倍に増加し68%となり、保護者59%、生徒41%で昨年度よりわずかに増加しているが、他の項目と比べて極めて少ない。全項目中、教員では2番目に少なく、生徒では最も少ない。
- ・「適切な進路指導」については、教員・生徒で肯定的回答が少し増加し、保護者では少し減少した。現3年生について入学年度から見ると、生徒・保護者ともに学年が上がるにつれて肯定的回答が増加している。
- ・「将来を考える機会」についても、教員・生徒で肯定的回答が少し増加し、保護者では少し減少した。現3年生の入学年度からの推移について見ると、「適切な進路指導」と異なり1年次の肯定的回答が最も多い。
- ・「将来について考えている」は、昨年度は保護者の肯定的回答が生徒・教員と比較して多かったが、生徒・保護者で肯定的回答が1～2%程度増加したのに対し、教員では9%増加し、保護者の数値をわずかに上回った。学年別に見ると、生徒・保護者ともに3年生で最も多い。
- ・「視野を広げる教育」については、教員では肯定的回答が91～92%で推移している。生徒では連続して増加しているが、保護者では少し減少した。現3年生について入学年度から見ると、生徒・保護者ともに1年次で最も多かったが、生徒の方が年度間の差は小さい。
- ・「基本的生活習慣」については、三者ともに肯定的回答が少し減少した。
- ・「規範意識」については、教員では肯定的回答が93～94%で推移し、生徒・保護者では少し減少した。
- ・「品位」については、三者ともに肯定的回答が少し減少した。
- ・「学校行事」では、この2年間のコロナ禍においても、肯定的回答は以前と同程度の数値を維持している。
- ・「部活動」については、昨年度は新型コロナウイルス対応で3年生にとっては活動できる最後の期間に部活動や公式大会が中止となり、3年生の肯定的回答が生徒で50%を下回り、保護者では40%を下回った。今年度は、活動時間の制限等があったが、公式試合は実施されたため、生徒・保護者ともに肯定的回答が2・3年生で増加し、全学年で一昨年度を上回った。
- ・「体罰・いじめがない」については、肯定的回答が生徒・保護者の全学年で90%を超え、生徒では全項目中で最も多く、保護者では3番目に多く、教員では100%と三者ともに評価が高い。
- ・「防災教育」については、昨年度は三者ともに肯定的回答が大幅に減少し、今年度も生徒・保護者では連続して減少したが、教員では肯定的回答が増加した。
- ・「相談・連絡への対応」については、生徒では昨年度と同程度であるが、保護者では減少した。教員では3年連続で100%である。生徒では3年間とも肯定的回答が90%以上であるが、保護者では「わからない」が20%以上あり、肯定的回答は生徒と比較すると20%以上少ない。

- ・「地域との良い関係」については、教員では肯定的回答が一昨年度まで90%台で推移していたが、昨年度・今年度は80%台前半に減少した。生徒・保護者ともに例年、全設問平均を下回り、教員との差が大きい項目で、昨年度は肯定的回答が更に減少したが、今年度は少し回復した。保護者では、毎年「わからない」が全項目中で最も多い。
- ・「進学指導推進校の認知度」は、直近の3年間、生徒では80～82%、保護者では92～94%で推移し、保護者の方が生徒より10%以上多い。
- ・「英語教育推進校の認知度」は、昨年度は保護者の方が生徒より7%高かったが、今年度は保護者で88%に減少し、生徒の87%と同程度となった。
- ・各事業の成果については、いずれも保護者では「わからない」が多く、肯定的回答は生徒より大幅に少ない。生徒では、「進学指導推進校の成果」で肯定的回答が2年連続して約5%増加し、86%となり、各事業の中で最も多い。「探究学習の成果」「英語教育推進校の成果」については、ともに昨年度より少し増加し、ともに77%である。今年度新規の「デジタルを活用した学習の成果」は肯定的回答が68%で「探究学習の成果」の一昨年度の数値と同程度である。
- ・「働き方改革の認知度」について、平成31（令和元）年度に学校で具体的な取組が開始され、生徒の肯定的回答が約14%増加し約4分の3となり、昨年度も同程度であったが、今年度は7%減少した。保護者では昨年度まで2年連続で少しずつ上昇していたが、今年度は昨年度と同程度である。一方、教員の「ライフ・ワーク・バランスの取組」に関する肯定的回答は3年連続で増加している。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・「学校行事の取組」については、この2年間のコロナ禍においても、肯定的回答は以前と同程度の数値を維持している。今年度も全学年対面での学校行事は実施できなかったが、制約が多い中で実施方法を工夫し、実行委員会を中心に生徒が主体となって学校行事に取り組んだことが一定の理解を得ていると考えられる。しかし、生徒・保護者の自由記述においては、修学旅行の中止、体育祭・文化祭の実施形態について、学校あるいは都教育委員会の対応に対する否定的な内容が多く、中止や実施形態変更等の対応に対する生徒・保護者の率直な心情が表れている。
- ・保護者の回答では、地域との関係、東京都教育委員会指定事業の成果、学習指導や教員の指導・対応等に関する項目で、「わからない」という回答が多く、肯定的回答が少ない。生徒・保護者への配布文書、保護者会、ホームページ等で保護者への情報発信を工夫するとともに、保護者との面談を設定する等、保護者とのより緊密な連携を図ることが重要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価の「入学満足度」「体罰・いじめがなく安心」「学校行事への取組」等の項目で肯定的回答が多いことから、生徒・保護者の大多数は本校の学校生活やコロナ禍での学校行事の取組に満足していることが確認できた。一方、学校評価において否定的回答や保護者の「わからない」の回答が多い項目や自由記述、更に協議委員からいただく意見や助言、情報を通して、教職員が重点的に取り組むべき課題や取組の方向性について認識を深めることができた。
- ・協議委員に本校の教育活動を理解していただくことにより、本校の教育活動への協力や理解をいただくことができています。特に、コロナ禍で地域と連携した活動が制限を受けている状況下で、協議委員を通して近隣の小学校や幼稚園と連携した活動ができたことは、当該の児童や園児、本校生徒の双方にとって貴重な経験となった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・基本的な生活習慣に関する生徒の肯定的評価が学習指導や進路指導・キャリア教育と比べやや低い。教員の自由記述では、生徒指導において教員間の連携を求める内容があり、生徒・保護者の自由記述では、服装指導を中心に校則の理由の説明・見直し、逆に指導の徹底を求める内容が見受けられた。教員の共通理解と同時に生徒及び保護者の理解を図り、継続して組織的に指導に取り組む必要がある。
- ・生徒及び保護者の自由記述や生徒の出席状況などから、多くの生徒が学校生活を楽しく有意義に過ごしているのに対して、一部の生徒は学校生活にうまく適応できていないことが伺える。個別の傾聴的会話、カウンセリング、サポートの充実を図ることが重要である。
- ・「防災教育」については、昨年度は三者ともに肯定的回答が大幅に減少し、今年度も生徒・保護者では

連続して減少した。保護者では昨年度から「わからない」が連続して増加し、肯定的回答が「地域との良好な関係」を下回った。生徒の意識に残る避難訓練・防災訓練を繰り返し実施する等、防災教育の推進を図る必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価アンケートを活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・教務部・進路指導部・教科主任会が連携し、新学習指導要領及びグランドデザインに基づいて編成した教育課程に基づく教育活動を実施する。
- ・戦略的な情報発信を展開し、本校の教育に理解と共感を抱く保護者・生徒の拡大を図り、「高い志の進路指導と国際理解教育」の具現化に対する意欲がある生徒の獲得を目指す。

(2) 学習指導

- ・目標と評価を明確にし、基礎、基本の定着を図り、考えさせ、表現させる活動を通して、「主体的な学び」の実現を図る。ルーブリックを活用し、思考スキルの獲得を意識させ、自学自習の動機づけとする。
- ・「知的探究イノベーター推進事業」の成果を継承し、総合的な探究の時間及び全教科で「新しい価値」を創造する探究学習を推進する。
- ・Teams, Forms, OneNoteなどを活用して、生徒一人1台端末に対応した授業を実践するとともに、ペアワークやグループワークで話し合い活動を取り入れ、協働学習を推進する。
- ・国際理解教育を推進するとともに、SDGsの17の目標と169のターゲットを意識した教育活動を行い、エシカルな行動を実践し実現を図ろうとする態度を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。

(3) 生活指導・進路指導

- ・時間遵守の精神の育成、ルールとマナーの徹底を図り、「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を励行する。
- ・生徒会・ホームルーム活動・学校行事・部活動等の組織運営について、生徒主体に運営する支援体制を整備し、望ましい人間関係、協調・協働の精神や連携意識の涵養を図り、帰属意識を育成する。
- ・進路指導部主導による意図的・計画的なキャリア教育を推進し、面談指導を充実させ、評価・改善を重視したPDCAサイクルの指導を実施し、諦めない心と向上心を育成し、「高い志の進路実現」を図る。

(4) 健康・安全

- ・生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図るとともに、体罰・いじめの未然防止を徹底し、異年齢交流を実施し、人を大切にする教育を推進する。
- ・地域機関と連携した全校での防災・避難訓練を実施するとともに、生徒による防災支援隊を組織し、自助・共助の精神の育成を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 12人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	5	1			1	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回